

令和7年度 高畑小学校 研究の概要、成果と課題

1 研究主題

「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成 ～意図を明確にした協働的学習を通して～」

2 昨年度の研究と研究主題設定の背景

本校では昨年度、こどもたちの伝え合い、学び合う力をさらに引き出していきたいという思いから「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成～協働的な学びができる授業づくりを通して～」を研究テーマとし、研究に取り組んできた。授業実践を重ねる中で、児童が主体的・協働的に学ぶ姿が見られるようになった。また、「協働ファイブ」（「決める」「つくる」「見付ける」「まとめる」「広げる」）のカードを活用し、児童が視点をもった話し合いができるようにする等、授業の改善に取り組むことができた。

しかし、教師が「協働ファイブ」の使用場面で何に当てはまるのか迷う時もあったり、児童が何のために話し合っているかを自ら考えることができなかつたりしたので、引き続き研究を続けていった方が良いと考えた。

そこで、今年度も主題を「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成」とし、副主題を「意図を明確にした協働的学習を通して」とした。

3 本年度の研究の流れ（研究全体会 3回、研究授業 6回）

4月：研究全体会（方向性・進め方の確認／各学年の課題について）、5月：研究全体会（基調講演 講師 山梨大学教授 茅野 政徳 先生）、7月：2年研究授業、9月：6年研究授業、10月：1, 3年研究授業、12月：5年研究授業、2月：4年研究授業、3月：研究全体会（次年度の研究について）

4 成果と課題

「意図を明確にした協働的学習」を通して、話し合いの目的を意識させたり、ペアやグループ編成を工夫したりすることで、意欲的に話し合う姿、相手に分かるように伝えようとする姿、友達の考えを取り入れながら学ぶ姿が見られた。

しかし、自分の考えを十分にもてず、対話に参加しにくい児童もいる。また、話し合いの意図は理解できているが、「教師に示された意図に沿って話し合う段階」にとどまっている。

5 令和8年度の研究について

令和8年度は、協働的な学びをさらに深めていくため、研究テーマを「考えを伝え合い、学びを広げ深める児童の育成～協働的な学習のよさを実感できる授業づくり～」とする。児童が協働的な学びのよさを実感することで、自ら協働的な学びを求める主体性も育てたい。